

令和7年度 学校関係者評価（四街道小 学校運営協議会）

A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

項目	評価	評価内容
学校運営	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の学校評価において、肯定的評価が全体の94%と高い水準だった。健康・体力の向上、いじめ対策、不登校対策で、学校と家庭で情報共有した成果と考える。 児童の自主性と協働性を高めるため「ふれあい活動」を実施し、6年生のリーダーを中心とした縦割り遊びや、ふれあいグループを元にした運動会の色分けを行うなど、児童が考え行動する場面を設定し指導していたことが良い。 校舎内外ともに教育の場に相応しい環境維持が図られている。また、職員は児童の人権を尊重しその成長を優しく見守っている。 トイレの洋式化は早く進められると良い。児童にとって重要な課題だと考える。
学習指導	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童に学習に対する目的意識や必要感を持たせ、意欲的・主体的に取り組めるような指導方法の工夫・改善を図っていた。 「わかる授業」「興味・関心を持たせる授業」になるよう、教職員の熱意とそれに応える児童の姿を授業参観で見ることができた。 学習のめあてを明確にし、児童がその時間の授業の見通しを持てるようにすることは良いことだと思った。専門の先生を招いての授業も、良い経験になったと思う。 授業が楽しく分かりやすいかどうかを捉えるためには、児童の感想や要望を収集しておくことも一案だと考える。
学校行事等	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校は、地域・保護者との連携した教区活動を再開したので、コロナ禍以前の教育活動に近い活動ができた。 学校内外における、自然観察、世代間交流、伝統的・文化的活動等、多方面に渡る見学や体験活動を通して、児童の健全な成長が図られていた。 保育園・幼稚園児童との交流が、子どもたちにはとても興味深い活動になったと思った。
生徒指導	A	<ul style="list-style-type: none"> スローガン「自分からあいさつ」「やさしいことば」が児童に浸透していることが、児童アンケートの数値が向上していることからよく分かった。 画一的な指導でなく、児童個々に即した対応が行われていて良い。教職員の労を惜しまない取組の賜であると考えます。 学校評価における「児童理解と児童の心情に寄り添った指導」について、保護者の評価と職員の評価に大きな数値の差が見られた。児童の感想や要望も捉え、実態が把握できると良い。
家庭・地域との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> 「四小だより」の自治会での回覧を通して、学校の運営状況を多く知ることができるので、毎回楽しみにしている。 学校、家庭、地域の連携が十分考慮されている。児童は地域で育てるという気風、認識が共有されている。 「地域・PTA・児童・職員合同クリーン活動」では、地域の方々と学校で落ち葉掃きをして、更に交流を深められたことがよい。 PTA活動は、共働きが当たり前となる中で、仕事の休みを取ることが難しいと思う。より良い方法を検討し、学校と児童の様子に興味をもってもらうためにも、PTA活動を継続して行ってほしい。
児童の様子	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から引き続き学校の適切な方針のもと、児童が元気に活動している。学校は楽しく学習したり友達と過ごしたりする場所だという意識が定着している。 4月から1年間児童の様子を見てみると、児童の各所に成長が見られ喜ばしい。 児童が教職員を見る目が、時には憧れであり、また尊敬であり、その表情は実に豊かである。社会生活の基盤が徐々に養成されていると感じる。 授業参観では、どの学級も落ち着いて授業に取り組んでいた。 優しい言葉をかけることは、いじめ防止にもつながることだと思う。引き続き児童には意識をして欲しい。

